

# 国連NGO横浜国際人権センター・うずしおランチ T-over人権教育研究所・人権こども塾ニュース

生涯の絆を育む板野中学校の人権・部落問題学習⑦ ～私の一番中心はみんなです～

授業も終盤に近づき、教材として取り上げた丸岡忠雄さんの生き方から、どんなことを学んだのか、生徒一人ひとりが自分の経験を思い起こしながら、語っていきます。

## 中学1年の時に味わったいじめに思いを馳せたS・Fの語り

私もあまり人の涙は見たくないんだけど、私だって、中1の時は泣きたかったし、今までだって我慢してきたし…、差別ってというのは辛いから…、中1の時に味わった思いはもう二度と味わいたくない。差別に苦しむ人の姿も見たくない。

みんながそんな苦しみを味わうことのないように頑張って勉強していきたいと思います。

## 信頼に応えられる人間になるという決意を伝えたK・Nの語り

みんなは信頼してくれているけど、僕にはまだ信頼されるほどの力はないと思います。

みんなに信頼されている限りは、みんなの期待を裏切らないように差別をなくすために頑張りたいです。

## 人権学習の本質を伝えたY・Iの語り

先生にとって丸岡忠雄さんとか、みんなにとって丸岡忠雄さんとかは、すごい人かもしれないけど、私にとって丸岡忠雄さんというのは「ただのおじさん」です。

私の丸岡忠雄さんは、みんなであり、先生であり、みんなの丸岡忠雄さんは、みんなであり、先生であり、みんなが悲しむことにより私も悲しくなり、みんなが頑張ることにより、私も頑張らないかんと思う。

私の一番中心はみんなです。この勉強をするにあたって、絶対みんなを泣かしたくないと思います。

みんなが笑ってちゃんとやっていけるようになるまで、ほんまにみんな頑張っていかなあかんと思います。

みんな頑張りましょう。

Y・Iの語りで、授業は、終わりました。人権学習は、共感と連帯であり、互いへの信頼と尊敬であることを確信した50分間の語り合いです。

授業から、30年以上が経過しました。一人ひとりの語りは、今も私の背中を押してくれます。

すべての記録は「T-over人権教育研究所」のHP【関連書籍『峠を越えて』(森口健司著)】に掲載しています。部落問題を「わがこと」として語り合った生徒たちの思いや願いにふれていただければ幸いです。

この語り合いは、1991年10月31日(木)、第25回全日本中学校道徳教育研究大会特別公開授業、1991年11月19日(火)、第21回徳島県中学校同和教育研究大会公開授業へと続いていきます。

